

デジタル化社会の進展

副支部長 古谷 勉

現在、IT（＝情報通信科学）時代の過渡期にあり、「インターネット」、「デジタル」、「アナログ」及び「オンライン」などの言葉が世の中に飛び交い、伝統的（＝レガシ）なやり方を大きく変化させています。

21年度、菅政権は政府と霞が関が最新のテクノロジーであるデジタル化をけん引する、司令塔の「デジタル庁」を創設しました。当時の河野行革相は、行政手続き上の書類にハンコの押印を廃止し、紙媒体の紙面のアナログデータから、電子媒体のパソコン・タブレット・スマートフォン（＝スマホ）などの電子機器の画面のデジタルデータ（電子機器で扱える形になっ

ているデータ）に変換するデジタル化を推進する施策を示唆しています。扱うデータ自体は、デジタル形式に変わりますが、人が行うプロセスは基本的に同じです。個々の電子機器が保有するデジタルデータを相互にやり取り（＝電子通信）する場合、電子機器をインターネット（＝オンライン）にする、オンライン化はデジタル化の有効活用を高めています。

デジタル化とオンライン化の流れは、個人の日常生活や組織の活動等に大きな影響を与えています。支部だより第38号の巻頭言は、パソコンでデジタル原稿を作成し、支部だより編集委員長との

第 38 号

令和5年1月25日

東京都退職校長会

北多摩中部支部

発行責任者

支部長 鹿田克己

小金井市本町

3-5-17

042-401-2559

オンラインで送信したものです。

北多摩中部支部の事務作業の主なデジタル化は、次の通りです。

19年度から会計部は、紙の「出納簿」を廃止し、表計算ソフトウエア「エクセル（Excel）」を利用して、年度ごとにデジタルによる「項目別収支決算表」と「収支決算表」を作成しています。これら2つの表は相互に関連があり、どの時点においてもパソコン上に入力したデータが正しければ、必ず「支払金額」は一致します。支払金額の数値が合致しなければデータの入力ミス箇所を探すことになりますが、表の合計計算は自動的に行われ、電卓（アナログ機器）の使用がなくなることや前年度の表計算の枠組みを利用することが可能であり、会計事務の省力化につながっています。

21年度から支部長の役員会開

催通知は、紙（葉書・アナログ）のほか、パソコン等の電子機器利用のオンラインによる通知（＝デジタル）を実施しています。これにより「一般事務量」の軽減・「通信費」節約などが期待されます。このようにデータは必要に応じてオンライン通信で会員の電子機器に届けられています。

近未来の本支部の組織運営は、事務のデジタル化の方向に移行するだけでなく、①「総会」は従来の対面会議とモニターやカメラ、マイクを使うオンライン会議のハイブリット形式で行うと、総会参加者の増加が期待されます。②「支部だより」や「近況報告」は、デジタル化して電子機器で読む方式にする、③「多くの情報を素早く得る」、「持ち運びに便利」、かつ、「経費軽減」になります。アナログ紙面は「じっくり読む」、「メモの記入」などに適しています。しかし、デジタル資料を印刷すると会員の自己負担増になるなど、デジタル化には種々の課題や問題が存在します。多種多様なデジタル化は可能なものから実施を検討します。

東村山市古刹「梅岩寺」等見学会に参加して

半田 登

十月十五日(土)、参加者九名。天気予報と異なり、秋空がのぞく心地よい見学会日和となった。案内・解説は大井研修部長。いつもながら用意周到な自作の資料。判り易い解説でスタート。

① 東村山駅 初めは明治二十七年川越鉄道(後の西武鉄道、川越(国分寺)が開通するまでの「久米川仮停車場」。開通後廃止。地域住民の熱い要望で翌二十八年「東村山停車場」として現在地に。

② 志村けん銅像 生れも育ちも東村山。「東村山音頭」で一世を風靡。令和二年コロナ感染で逝去。東村山市名誉市民。国分寺線発車時は東村山音頭の曲が流れる。

③ 芳林山梅岩寺(曹洞宗) 山門脇のケヤキ(樹齢七百年余)、カヤ(同六百年)の巨樹は東京都指定天然記念物。聳え立つ巨木に圧倒される。開山は慶安四年(一六五二)。本尊は聖観音菩薩座像。鎌倉道や久米川宿一帯の住民の菩提寺。歴史的、

文化的な意味を持つ建造物や石造物が多い。○四つの紋章の本堂。正面唐破風に足利氏の「丸に二引」、屋根大棟中央に徳川氏の「三つ葉葵」、右に曹洞宗大本山永平寺の「笹りんどう」、左に鶴見総持寺の「五七の桐」、それぞれに由来がある。

○鐘樓の鐘。毎日十一時半「お昼の支度」を今も知らせる。煩惱を打ち払い、平穩無事を願ひ黙々と打ち続ける住職さん。○新四国八十八ヵ所石仏。完全な形で霊場巡りを今に伝える。○川上行義の墓。明治六年の「仇討ち禁止令」後、父の仇を果たした行義。小説や芝居にも。(郷土研東村山の昔話)

④ 熊野神社 久米川村の鎮守。創建、由緒は定かでない。社殿は明治十四年再建。本殿、拝殿は総ヒノキ造り入母屋銅板葺き、厳かに熊野信仰を伝える。境内に江戸期に築かれた富士信仰の富士塚がある。

⑤ 阿弥陀堂・如意輪観音像 阿弥陀堂は梅岩寺が管理。堂前の如意輪観音像の台座には「千日惣回向」とあり、周りに五十八ヶ村の名を刻む。この墓地に志村けんさんの墓がある。合掌。

⑥ 豊島屋酒造 創業は慶長元年(一五九六)江戸神田鎌倉河岸の酒屋兼一杯飲み屋。昭和初期東村山に豊島屋酒造を設立。富士山からの伏流水を汲み上げて仕込んだ銘酒。深い井戸がある。職員の名ガイド振りに拍手。見学後、試飲を楽しむ。

⑦ 久米川辻 六本の道が複雑に交わる。中世の頃から生活の中心地。現在は府中街道と江戸道の十字路だが、昔は志木街道、江戸道、野際通りが集まった東後方の位置。

⑧ 府中街道 東村山の中央部を南北に貫く幹線道路。川崎駅北から府

中・小平・久米川辻・所沢へ。

⑨ 江戸道 徳藏寺前・久米川辻・鷹の道・江戸へ。物流の道。

⑩ 旧志木街道 青梅から志木を結び、江戸への船便に繋がった。

⑪ 鎌倉街道(上道) 東村山を南北に通る。沿道の「久米川宿」は日蓮が佐渡流罪時の宿泊地。新田義貞の鎌倉攻め「久米川古戦場」。住宅内に佇む白山神社。じつと見つめ直した牛頭天王像がある。

⑫ 東山道武蔵道跡 東村山駅北踏切側。千三百年前武蔵国分寺(東村山)奈良の都を結んだ古道の案内板がひっそりと建つ。東村山の昔に思いを馳せ駅前へ。歩き学び楽しんだ研修会だった。



上 志村けんの銅像の前に集合
中 久米川宿近くで
下 白山神社で

武蔵野台地の地形散歩

小平市 原田美知子

地形散歩を一緒に！

武蔵野台地は古多摩川が関東山地から運搬してきた砂礫が堆積してできた土地でその上部には関東ローム層と称される火山灰が堆積している。そして青梅を扇頂として北東および南東へと緩やかに傾斜している。

「国分寺崖線と湧水地の景観」

小平から南へ行くと国分寺駅の南側に急傾斜の坂道が続く。ここは古多摩川が台地の側方を削り広がった河岸段丘である。段丘面の境には段丘崖が連続し国分寺崖線は親しまれている。

段丘崖下の礫層からは水が湧き出し、標高50m沿いに点在する湧水地はオアシスであり、昔から人々が住むのに適した場所であった。

台地に降った雨は伏流水となり、地下を流れる勾配が変化する扇端部で地表に現れるがこれも標高50mの湧水の産物で井頭池などがある。

国分寺崖線は立川から国分寺市

調布市を經由して世田谷区へと30

kmも続いている。崖の斜面には樹木が育ち雑木林となり、崖の下には湧水地点があり美しい景観が随所に見られる。以下紹介します。

○国分寺駅近くの日立中央研究所の大池は野川の源流であり湧水に満たされている。野川は崖線に沿って流れ、湧水を吸収している。

○三鷹市にある野川公園や大沢の里には、わき水広場やほたるの里、植物観察園や水田など整備されている。さらに東へ行くと深大寺に出る。この境内は崖線に刻まれた谷の中にあり、清冽な湧水は深大寺そばを有名にした一因である。池の谷戸の湧水は都立農業高校の神代農場や佐須の水田に流れ、今も里山風景が残っている。

○世田谷区は湧水地が多い。等々力溪谷は崖線の南端にあり1kmも続いている。台地と不動の滝の標高差は10mで夏でも涼しい溪谷である。海だった頃の堆積物を含む層が露出していて、地形散歩、歴史散歩が楽しいところである。

「地下水路の謎」

小平市とその周辺地域には石神井川、仙川、黒目川などの源流の他、二つの形状の「浅皿状窪地」が分布している。一つは円形状・すり鉢状で平坦な土地に突然現れる高低差2〜3mの窪地。天神窪、平安窪、山王窪、恋が窪へと続き、いだらぼっちの足跡等の言い伝えもある。

もう一つは小平霊園さいかち窪周辺の新青梅街道に冠水を起こす謎の水路の存在である。これは細長い浅皿状の窪地で、東大和市駅付近のぐみ窪から新小平駅北側の石塔が窪を通り、西武多摩湖線を過ぎると北北東に向かい、小平霊園のさいかち窪を通って北東方向にある黒目川の源流に落ちていく長い水路である。普段は透水性がよいが、降水量が浸透量を上回ると野水となり、時に冠水状態が起きることがわかった。

何故地下に水路が存在するのか小平市史、地形と地質の章に、武蔵野礫層が地表面であった頃、古多摩川の流路で流された面であると記載されていた。皆に周知されていることを知り赤面している。

「玉川上水」

玉川上水は羽村取水堰から四谷大木戸までの43kmを高低差92mで武蔵野台地の尾根部分を自然流下している。途中、立川市砂川町付近で高低差3mほどの崖を避けて200m程南に湾曲している。この崖こそが立川断層である。江戸時代に高度な土木技術があり困難を克服して開削されていることに敬服している。

これからも地形散歩を楽しみたい。自然や歴史にふれて謎を解くのもいいものです。

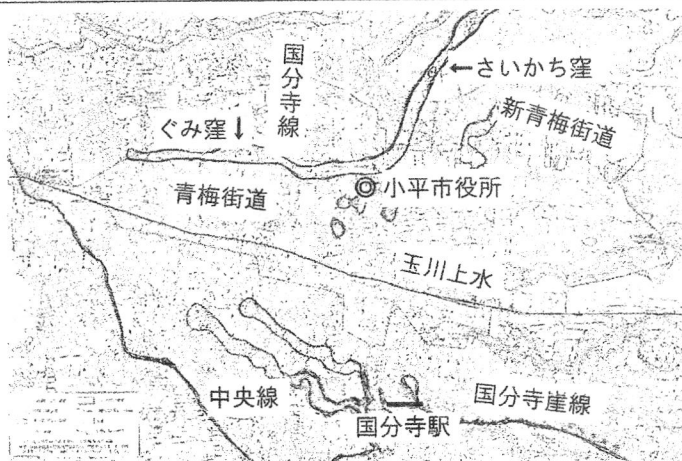


図 小平市土地条件図 (小平市史 地理・考古・民俗編 付図1)に加筆

米寿会員よりの一言

振り返れば……

今村 重仁

お蔭さまで、八十八歳直前まできました。本会をはじめ、出会いのあった多くの方々にお世話になりました。その皆さまにお返しができないうまま、今日に至りました。教え、支えていただいたことを、深く感じつつ、改めてお礼を申し上げます。

振り返って、自分の努力不足、そして、自分が大したこともできない人間であると自覚できたことはよかったです。

ありがたいことに、わたしは現在も、四十年以上続いている国語科の研究会に参加しています。月例の会です。区市でかなりの実績のあるメンバーの実践・研究に触れ、かなり厳しい言葉も交えた協議に心を洗われています。恵まれ過ぎかと思えます。

叙勲も、わたしにはふさわしくないと考えて辞退しました。これからは、普通に生きていきます。

回想から

高貝 正志

米寿、若いときは遠い世界の眺めであった。銘酒「天寿百年」の愛飲のなせるわざかな、今に至る存命こそ多くの方々のお蔭と心からの感謝である。かつて求められた教育百字感に「昭和三十年代から教育の世界を通して秋田と東京で多くの方々に出会い、多くのことを学ばせて戴きました。特に社会科・情報教育を中心にしながら教育改革のさなかに学校経営に携わらせて戴いたことに心から感謝しています」とメモした。あれから二十余年、まさに「歳月人を待たず」である。退職後は社会教育分野でNPO法人多摩川環境研究会の活動や秋田の雄物川の河川文化研究。楽しみは今に続く教え子との交流のクラス会。夏は、北アルプスの山麓のトレッキング。また山の辺の道に点在する歌碑や大和の歴史に魅せられて遊歩を楽しみましたが今、夢は山麓を駆け巡る思いです。

新会員からの一言

学校教育の進化

佐藤 玲子

東京都公立学校の教員として勤務して40年目以上になります。小平の上水中学校を振り出しに小金井の東中学校まで、小学校1校、中学校6校に勤務。現在は定年を迎えた小金井で7校目になる現場で経営支援をさせて頂いております。

昨年は鉄道開業150年で様々なイベントが行われました。鉄道開業と時期を同じくして、日本の近代化の一翼を担った教育制度「学制」が公布されました。一八七二年に公布された「学制」は、教育を充実することによって国民の知識を高め、国家の近代化を進めることを目指したものです。

150年後の現在、コロナ禍が後押しした形で学習ツールとして「1人1台端末」の整備が急ピッチで実施され、令和三年をGIGAスクール元年としました。学校では生徒が教科書やノートと一緒に、クロームブックを机の上に置きながら、授業を受けています。個別最適な学びの実現を目指して、私も授業でクロームブックを活用しているところです。今後の学校教育の進化が楽しみです。

会員動静

支部だより前号(三十七号)以降の会員の動静をお知らせします。

入会

武田 憲明氏(東村山)九月

退会

水野 稔氏(小平)六月

浅井 嘉平氏(小平)九月

椎木 琇蔵氏(東村山)九月

編集後記

支部だより第三十八号をお届けします。

巻頭言は古谷副支部長、研修会報告は半田登先生が書いて下さいました。原田先生からは興味深いご寄稿をいただきました。

米寿の高貝、今村両先生と新会員の佐藤先生にお言葉をいただきました。

新型コロナウイルスはまだまだ収まりそうにありません。会員の皆様がお元気でお過ごしになることを願っております。

(鎌田敏雄)